

# 北社会ニュース オ71号

2011年2月14日

発行者：鈴木壮夫

そうか！もう7年にもなるのか！

北社会の主宰者青山史朗大先輩（中40回卒）がご自身の人生を豊かにしてくれた多数の同窓生に感謝しつつ、惜別の思いを込めて「北社会」の運営を後輩に託されたのは、2003年11月のことでした。自発的に5人が名乗り出て世話人会を結成、2004年年明け早々「北社会」の新しい運営が始まりました。会員は青春時代のたった3年間、仙台二高という通過点だけが共通なだけで年齢も三代にわたり「北社会」への“思い”も様々です。そこで、私達五人の世話人が目標としたのは『同窓生だからこそ、年代を超えた交流を目指したい』会員の一人一人が当事者意識を持って、「北社会」への運営にたずさわっていただきたいということでした。2004年2月18日、第218回が私達世話人五人のスタートでした。日記には43名の参加、“雨か嵐か”“校歌”を唄いあい一応盛会と書いてあります。7年、経って今日は第288回、7年間が過ぎました。会員の皆さん、どんどん、いっぱい、「北社会」をより実りある会にするため当事者意識をベースにご提案いただけますよう強く強くお願い致します。

## (1) 本日、第288回 北社会

講師：伊沢逸平氏（高12回） 八重洲ブックセンター

講演テーマ： 「最近の書店及び電子書籍の将来」

新聞報道によれば、昨年の出版物の推定販売額（電子書籍を除く）は1兆8748億円で21年ぶりに2兆円台を割り込んだ09年をさらに下回り、紙の本は不況が続いている。雑誌の休刊は216点と過去2番目に多く、新刊は110点にとどまった。

出版科学研究所は「書籍は売れる本と売れない本の二極化が顕著。雑誌は新企画不足と休刊増加が響いた。電子書籍端末は普及が進まず、市場拡大は次年度に繰りこされた」と分析している。＝1月25日＝読売新聞＝

会員の皆さん、昨年、買った書籍は前年に比較して多かったですか少なかったですか？

## (3) 来月、北社会

講師：福原卓彦氏と私（何れも高11回）

テーマ： 仮題 「70才の独り言」

副題：福原氏 “海外子供ボランティア”  
鈴木 “卒サラそば屋も十三年目”

## (4) 1月19日、仙台北陵会 ～私、鈴木壮夫が講師～

当日、仙台駅に着いたら小雪が舞っておりました。会場の江陽グランドホテルに参加いただいたのは同期生16人含め、60人弱。落ち着いて、予定通りの時刻で終了しました。講演後、約1時間のパーティ、羨ましい程の贅沢、やっぱり地元は素晴らしいでした。